

二十歳の誓い

私は小さい頃からシャイな性格で、人前に出たり自分の意見を言ったりすることが苦手でした。この内向的でおくびょうな自分の殻を破りたい、そして自分自身の考えを改めて確認し、この先の人生を見つめるために、「二十歳の誓い」に応募しました。

どんな人になりたいのか、ずっと心に思っていることがあります。「モモと時間泥棒」という小さい頃に読んだ本の中に、2人の人が喧嘩をしていて主人公の女の子のモモに話を聞いてもらいに来るのですが、モモに話を聞いてもらっているうちに不思議と怒りが消えいつのまにか仲直りしてしまうという場面があります。この場面が強く印象に残り、「モモのような人になりたい。そこにいるだけで周りを暖かくできる人になりたい。」と小学生の頃からずっと「モモのようないい人になりたい！」思ってきました。

そんな私の将来の夢は、難民の教育支援に携わることです。高校生のときに難民問題をテーマにしたワークショップに参加したことがきっかけで、興味を持つようになりました。「難民の約半数が子どもである」と知って衝撃を受け、当たり前前に遊んだり学んだりする日々を送ることのできない子どもたちが世界中に沢山いるのだということを改めて実感し、心が揺さぶられました。自分と同じ歳くらい、または自分より小さい子どもたちが厳しい環境のもとで苦しんでいるのなら、彼らのために私ができることは何かと考えるようになりました。

今、大学で教育学を学んでいます。子供たちが戦争や紛争、日々の不安から距離を置いて安心できる環境を作りたいと思っています。日本の児童館のようなイメージの施設を、難民キャンプやその他の場所に住む難民の子供たちを対象に運営できたらいいなと考えています。安心できる場所で学ぶことによって、子供たちが保護に頼らず、自分で考え自分の人生を生きることが出来るようになる、私がこれから実現してみたい教育支援です。

二十歳になった私たち自身も、自分で考え、自分の意志を持つことは生きていく上でとても大切です。他人の望むことではなく、自分の意志をもち自分で決断すること、自分の人生を生きること、そしてそこに居るだけで周りの人を笑顔にできるような、そんな『いい人』になることを「二十歳の誓い」とさせて頂きます。

本日は、私たちのためにこのような盛大な記念式典を開催して頂きまして、ありがとうございます。心よりお礼申し上げます

令和5年1月9日 新成人代表 ブラウン 蒔七